

令和3年4月版

文部科学省及び日本学術振興会が交付する
科学研究費助成事業（科研費）の取扱いについて

芸術文化観光専門職大学

目 次

1	研究者と研究機関との関係に関する定め	1
2	分担金の配分	1
3	収支簿の記載	2
4	支出状況の確認	2
5	直接経費の使用方法	2
6	立て替え払い	4
7	クレジットカードの使用	5
8	設備等の寄附及び返還	5
9	研究費の翌年度への繰越	5
10	関係書類の整理、保管及び確認	6
11	適正な補助金使用の確保	7

様 式

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業（科研費）の取扱いについて

芸術文化観光専門職大学（以下「本学」という。）における科学研究費助成事業（（科研費）以下「科研費」という。）の執行については、文部科学省及び日本学術振興会が定める「研究者使用ルール（補助条件）」及び「科学研究費助成事業（科研費）の使用について各研究機関が行うべき事務等」に沿って行うとともに、本学が作成した「公的研究費の管理・監査のためのマニュアル」（以下「マニュアル」という。）及び兵庫県公立大学法人会計規程等に従い、公正かつ最小の費用で最大の効果があげられるよう経費の効率的使用に努めてください。

その経費及び管理について、次のことに十分留意の上、取り扱ってください。

1 研究者と研究機関との関係に関する定め

- (1) 本学は、研究者が交付を受ける科研費について、次の事務を行います。
- ① 研究者に代わり、科研費（直接経費）を管理すること。
 - ② 研究者に代わり、科研費（直接経費・間接経費）に係る諸手続きを行うこと。
 - ③ 研究者が直接経費により購入した設備、備品又は図書（以下「設備等」という。）について、当該研究者からの寄附を受け入れること。なお、当該研究者が他の研究機関に所属することとなる場合には、その求めに応じて、これらを当該研究者に返還すること。
 - ④ 研究者が交付を受けた間接経費について、当該研究者からの譲渡を受け入れ、これに関する事務を行うこと。なお、当該研究者が他の研究機関に所属することとなる場合には、直接経費の残額の30%に相当する額の間接経費を当該研究者に返還すること。（間接経費の譲渡を受け入れないこととしている研究機関を除く。）
- (2) 科研費の交付を受けた研究者は、委任状（別紙様式1－1）により科研費の受領、管理及び諸手続を理事長へ委任し、理事長は承諾書（別紙様式2）により承諾するものとします。

2 分担金の配分

- (1) 研究代表者と異なる研究機関に所属する研究分担者がいる場合は、必ず分担金を配分してください。
- ① 異なる研究機関に所属する研究分担者に分担金を配分する研究代表者は、分担金配分申出書（別紙様式4）を作成の上、地域協働課又は総務企画課へ提出してください。
 - ② 分担金配分申出書（別紙様式4）の提出を受けた地域協働課又は総務企画課は、分担金の配分が認められている研究課題であることを確認の上、分担金配分予定通知書（別紙様式5）を作成し、研究分担者の所属する研究機関に対し、当該研究分担者に分担金が配分される予定であることを通知するとともに、分担金を送金する際に必要となる受領等委任状（別紙様式1－2）及び振込依頼書（別紙様式3）の提出を依頼してください。
 - ③ 間接経費が措置されている研究種目の場合は、原則として、分担金（直接経費）の30%に相当する間接経費も送金してください。ただし、分担者の所属する研究機関が間接経費を受け入れない場合等には送金しないこともできます。この場合には、必ず文書により確認してください。
 - ④ 研究分担者の所属する研究機関から、受領等委任状（別紙様式1－2）及び振込依頼書（別紙様式3）の提出を受けたら、速やかに分担金（直接経費）と直接経費の30%に相当する間接経費を送金してください。この場合の送金手数料は研究代表者の直接経費より支出してください。

3 収支簿の記載

科研費の管理を委任された総務企画課は、必ず収支簿（別紙様式10）を作成し、保管してください。研究分担者が配分を受けた分担金の収支簿についても同様に作成し、保管してください。

なお、研究分担者へ分担金の配分を行った場合には、研究分担者の所属する研究機関において、必ず作成するよう、総務企画課より依頼してください。

4 支出状況の確認

研究代表者は、研究費の支出状況を常に把握し、効率的な経費の支出に努めてください。また、総務企画課においても、研究代表者（分担金を配分された研究分担者を含む。）と連絡を密にし、科研費の適正な執行の確保に努めます。

特に、毎年度12月末日現在で、交付金額の50%以上の残額が生じている科研費については、総務企画課から研究代表者へ連絡し、執行計画を確認するようにします。

研究分担者に分担金を配分している研究代表者は、分担金にかかる経費支出状況についても定期的に報告等を求め、交付決定通知書の補助条件等に違反することのないよう留意してください。

5 直接経費の使用方法

(1) 直接経費から支出できない経費

- ① 建物等の施設に関する経費（ただし、直接経費により購入した設備備品を導入することにより必要となる軽微な据付費等は、支出することができます。）
- ② 調査研究実施中に発生した事故・災害の処理のための経費
- ③ 研究代表者又は研究分担者の人件費・謝金
- ④ 交付申請書記載の研究目的以外のものや、研究と直接関連のない経費（会議後の懇親会飲食代、酒、煙草等）
- ⑤ その他、間接経費を使用することが適切な経費

(2) 合算使用の制限について

合算使用とは、「ひとつの契約」に係る支払いにおいて、直接経費と他の経費（「間接経費」「直接経費から生じた利子」を含む。）を合わせて使用することを意味し、直接経費と使用目的（使途）が定められている「他の経費」を合算して、科研費の補助事業に使用することは、他の経費の使途の制限に抵触するため認められません。

但し、「ひとつの契約」であっても、使用区分を明確にして、それぞれの目的に応じて経費を充当する場合などは例外として容認されます。

合算使用にあたるが容認される場合は次のとおりです。

- ① 補助事業に係る用務と他の用務と合わせて1回の出張を行う場合
 - (ア) ひとつの契約で往復航空券を購入するが、旅程の前半が補助事業に係る用務であるため、往路分について直接経費より支出
 - (イ) ひとつの契約でホテルに5泊し、補助事業に係る用務に関係する2泊分について直接経費から支出
- ② 補助事業に係る用途と他の用途とを合わせて1個（※）の消耗品等を購入する場合
(※1個とは、1ダース、1ケースなどの一つのまとまった購入単位を含みます。)
 - (ア) ひとつの契約で1個の消耗品等を購入するが、補助事業に用いる数量と他の用途に用いる数量を分割して、補助事業に用いる数量分について直接経費から支出
- ③ 直接経費に、使途の制限のない他の経費（委託事業費、他の科研費及び間接経費など、当該経費の使途に制限のある経費は除く。）を加えて、補助事業に使用する場合（なお、設備等

の購入経費として使用する場合には、研究者が異動する際などに補助事業の遂行に支障が生じないよう、当該設備等の取扱いを事前に決めておいてください。)

- ④ 合算使用を行う各研究課題の研究遂行に支障を来さないことを前提として、次の要件を満たす場合
- ア 科研費の直接経費の合算使用時に、各経費を支出する研究代表者（又は研究分担者）が本学に所属していること。
- イ 合算使用を行う前に、各経費を支出する研究代表者（又は研究分担者）の負担額の割合及びその根拠等について書面により明らかにし、総務企画課の確認を受けること。
- ⑤ 直接経費に、他の科研費又は複数の事業において共同して利用する設備（共用設備）の購入が可能な制度の経費を加えて、共用設備を購入する場合
- ただし、次の要件をすべて満たす必要があります。
- ア 本学において購入する共用設備であること。
- イ 設備を共用化しても各研究課題の研究遂行に支障を来さないこと。
- ウ 購入前に、共用設備の購入経費を負担する補助事業者（以下「共同購入者」という。）の中から、共用設備の購入及び共用に関する管理責任者1名が選出されていること（管理責任者が他の研究機関に異動することとなった場合は、他の共同購入者の中から新たな管理責任者を選出すること）。
- エ 購入前に、共同購入者の負担額の割合及びその算出根拠等について、次のいずれかの方法で書面（様式自由）により明らかにしていること。
- (ア) 各共同購入者の使用割合（見込み）により区分できる場合は「使用割合（見込み）による按分」により算出すること。
- (イ) 「使用割合（見込み）による按分」により算出しがたい場合は「研究課題数による等分」により算出すること。
- オ 各共同購入者のいずれかが他の研究機関に異動することとなった場合でも、原則として本学において引き続き当該共用設備を管理すること（ただし、異動する共同購入者が、異動先の研究機関において当該共用設備を使用することを希望し、かつ、共同購入者全員が同意した場合は、当該設備を、異動する共同購入者の異動先の研究機関に移管できるものとする）。

（3）物品の発注事務について

物品の発注にあたっては、あらかじめ経費区分を明らかにしたうえで、原則、財務会計システムの購入依頼により事前に購入決定を行うこととします。その際、別紙（様式自由）の添付などにより購入理由を提出してください。紙決裁の場合は、物品購入等決定伺い（別紙様式1-1）により行ってください。また、兵庫県公立大学法人契約事務規程に沿って、発注前に見積り合わせ等を実施してください。

（4）設備備品及び消耗品等の購入について

設備備品等を購入する場合の「物品購入に伴う証拠書類の作成、微取」、「契約の方法」、「契約書の作成」、「検査調査の作成」等は、本学の規程等に従って実施してください。

（5）物品・役務の検収事務について

すべての物品及び役務の検収は、「マニュアル」6-（1）及び（2）に従って確実に実施してください。

（6）旅費について

- ① 出張は必ず所属長の命令（旅行命令簿）に基づいて実施してください。

- ② 研究組織以外の者に出張を依頼し旅費を支給する場合には、「出張依頼書」(別紙様式6)により依頼してください。
- ③ 旅費の支出を伴う出張をした場合、次のことに留意して、必ず出張報告（記録）書(別紙様式7)を作成してください。(特別監査の際、同報告書に基づき、出張の相手先等に出張の事実を確認する場合があります。)
 - (ア) 研究打ち合わせ等の用務である場合は、打ち合わせの相手方の所属・氏名を記載してください。
 - (イ) 学会出席等の用務である場合は、大会要旨や当日配付される資料の一部を添付してください。
- ④ 本学では、旅行期間が2年度にわたる場合における旅費は、当該2年度のうち前年度の歳出予算から概算で支出できることとなっていますが、科研費補助金においては、次年度に補助事業が継続する場合であっても、次年度分の旅費を前年度分の科研費補助金から支出することはできませんのでご注意ください。(但し、学術研究助成基金助成金及び科研費調整金においては、この限りではない。)

(7) 研究補助者の管理と事実確認について

研究補助者の管理と事実確認については、研究者任せにならないよう、原則として総務企画課が実施します。

- ① 研究補助者に資料収集、データ整理、実験補助等を依頼する場合は、総務企画課において、業務実施前に、業務内容、従事者、経費等を記載した実施伺いを作成し、決裁をとります。
- ② 原則として業務実施前に、従事者本人に対して総務企画課から、業務内容、条件等を説明します。
- ③ 業務終了後、従事者本人が、出勤表(別紙様式8-1)、(別紙様式8-2)又は(別紙様式8-3)を総務企画課に提出することとし、総務企画課は業務内容等について従事者本人から直接事実確認します。
- ④ 賃金の額は、「兵庫県公立大学法人外部資金の取得等に伴う非正規教職員の採用等に関する取扱要綱」等に基づき支給します。
- ⑤ 期末手当を支給する際は、(別紙様式8-4)を作成してください。

(8) その他の経費について

物品費、旅費、謝金等のほか当該研究を遂行するために直接必要な経費(例:印刷費、複写費、現像・焼付費、通信費等)についても、本学の規程等に基づき執行してください。

6 立替払い

(1) 立替払い請求について

立替払いは、原則、認められていませんが、緊急かつやむを得ないと認められる場合(※)に限り、必要な手続きを経たうえで認められます。

※ 立替払いが認められる場合

- ①現地払い・事前支払が必要(海外、学会等)
- ②請求書払いに非対応の業者に限定されている
- ③見積合わせの結果立替払いの方が安価
- ④その他やむを得ない場合

立て替え払いを行う場合には、必ず「立替払い請求書」(別紙様式12)に、立替事由を具体的に記載して提出してください。(記載不十分な場合は立替払いを認めません。)

検収事務については「マニュアル」6－（1）－エに従って対応してください。

（2）立替払い請求の期限について

① 現金払いの場合（チャージ型電子マネー等も含む）は、立替払い後2週間以内に立替払い請求を行ってください。

②クレジットカード払いの場合は、銀行口座からの引き落とし額が確定した後に請求を行ってください。請求の際には、再度物品を持参するなどの方法で提示してください。

（3）科研費配分前の予算執行について

科研費が配分機関（日本学術振興会等）から配分される前の予算執行については、総務企画課に資金融通を依頼してください。財源が無いからという理由で立替払いをすることは認められません。

7 クレジットカードの使用

（1）クレジットカード（以下「カード」という。）による支払いが認められる例は、次のとおりとします。

① インターネットで購入する航空券や物品など、一般的にカードで支払をすることが通例となっている場合。

② 外国で調査研究を行うにあたり、（多額の）現金を持ち歩くことが不用心であると判断される場合等。

（2）研究者が、カード払いを行った際には、次の書類を総務企画課へ提出してください。

① カードを利用した際に発行される利用明細書。

② 後日、カード会社から送付される利用明細書（請求書）。

③ カード利用により購入した物品の明細がわかるもの。（①により明確であれば不要です。）

（3）カード利用の際は次のことに留意してください。

① カード利用に係る請求は、通常1ヶ月程度遅れて発生することから、海外でカードを利用する場合には、外貨換算レートに注意し、カード利用額が補助金の執行可能額を超えないように注意してください。

② カード利用は、一般的な一括払いのみとしてください。

③ カード利用の場合にも必ず「立替払い請求書」（別紙様式12）を提出してください。

④ カード利用の場合の物品の検収事務についても、「マニュアル」6－（1）－エ 教員の立て替え払いの対応に沿って確実に実施してください。

8 設備等の寄附及び返還

（1）科研費により購入した設備備品（図書を含む。）は、兵庫県公立大学法人寄附金等取扱規程（以下「寄附金等取扱規程」という。）により、納品後すみやかに理事長に寄付を申し込んでください。

また、固定資産は会計処理と同時に固定資産台帳へ登録（少額固定資産は会計処理後すみやかに少額資産台帳に登録、図書は図書システムへ登録）して、適正に管理してください。

（2）設備備品の寄附を行った研究者が、本学を退職し、他の研究機関へ所属することとなる場合で、研究者から設備備品の返還申出があったときは、研究者へ返還することなっているので、寄附金等取扱規程により手続きを行ってください。

9 研究費の翌年度への繰越

交付決定時には予想し得なかったやむを得ない事由に基づき、研究が予定期間に完了しない見

込となった場合で、研究代表者が補助事業の期間を延長するとともに、研究費の全部又は一部を翌年度に使用することを希望する場合には、事前相談、繰越承認要求を経て、承認されれば翌年度に繰り越して使用することができます。

研究代表者は、繰越事由が発生した場合、速やかに総務企画課へ相談してください。

基金分の科研費については、事前に繰越の手続きを経ることなく、研究費を次年度に使用することができます。研究期間の最終年度の場合は補助事業期間を延長するための手続きが必要です。

10 関係書類の整理、保管及び確認

- (1) 地域協働課並びに総務企画課は科研費の申請、交付等に係る次に掲げる書類を整理し、補助金分は交付を受けた年度終了後5年間、基金分は補助事業期間終了後の5年間、一部基金分は全ての研究期間終了後の5年間、これらの書類を保管します。
- ① 文部科学省又は日本学術振興会に提出した書類の写は、地域協働課及び総務企画課で保管。
- (ア) 研究計画調書、研究計画調書一覧等関連書類
 - (イ) 交付申請書、交付請求書等関連書類
 - (ウ) 研究廃止承認申請書、変更承認申請書、研究中断承認申請書（該当する場合のみ）
 - (エ) 実績報告書（研究実績報告書及び収支決算報告書）等
 - (オ) その他この補助金に関し文部科学省又は日本学術振興会に照会、回答等した文書
- ② 文部科学省又は日本学術振興会から送付された書類は、地域協働課及び総務企画課で保管。
- (ア) 交付内定通知書及びその関連書類
 - (イ) 交付決定通知書及びその関連書類
 - (ウ) 研究廃止承認申請書、変更承認申請書、研究中断承認申請書（該当する場合のみ）
 - (エ) 科研費の額の確定通知書
 - (オ) その他この科研費に関し文部科学省又は日本学術振興会から通知、照会、依頼等を受けた文書
- ③ 科研費を適正に使用したことを証する書類は、総務企画課で保管。（研究分担者が分担金の配分を受けた場合を含みます）
- (ア) 直接経費
 - ・収支簿
 - ・関係証拠書類
 - (イ) 間接経費
 - ・支出に関する関係証拠書類（5年間保存）
 - ・収入に関する関係証拠書類
- (2) 研究代表者が分担金を研究分担者に配分した場合には、地域協働課（総務企画課）は、当該年度終了後に、研究分担者の所属する研究機関より分担金に係る次の関係書類の提出を受け、整理保管します。
- ・当該分担金の経理に係る収支簿のみ（但し、文部科学省又は日本学術振興会から、収支簿以外の収支状況が分かる書類を求められた場合は、その写しの提出を依頼します。）
- (3) 研究代表者が分担金を研究分担者に配分した場合には、地域協働課（総務企画課）は、研究代表者が本学に所属する研究分担者から徴した研究分担者承諾書（同一機関用）（別紙様式13-1）、もしくは異なる研究機関に所属する研究分担者から徴した研究分担者承諾書（他機関用）（別紙様式13-2）を、研究代表者が適正に保管しているかを確認します。なお、研究分担者の変更により、研究分担者が新たに加わった場合も同様に取り扱います。

1.1 適正な科研費使用の確保

(1) 誓約文書の収集及び保管について

科研費の運営・管理に関わる全ての構成員から、「芸術文化観光専門職大学における公的研究費不正防止計画（以下、「不正防止計画」という。）」⁴（2）に定める誓約書を収集し、内容を確認して保管します。

(2) 年度内使用の遵守と目的外使用の禁止について

物品の納入、役務の提供などは、その年度の3月31日までに終了してください。（ただし、繰越が認められた場合は除きます。また、基金分の科研費については補助事業期間内であれば、年度を超えた使用が可能です。）交付申請書記載の研究目的以外のものや、研究と直接関係のないものへの使用は禁止されています。また、交付期間外の使用も禁止されています。

(3) 経費管理担当者について

研究機関としての経費管理責任者は、事務局長とし、補助事業ごとの経費管理担当者は総務企画課長とし、交付申請書提出時に、該当欄に氏名を記載して報告してください。

(4) 研修会・説明会の開催について

科研費の不正な使用を防止するため、研究者及び事務職員を対象として、研修会・説明会を積極的かつ定期的に実施します。

- ① 事務職員を対象とした研修会・説明会を実施します。
- ② 研究者を対象とした研修会・説明会を積極的かつ定期的に（少なくとも年2回以上）実施します。
- ③ 年1回、科研費の運営・管理に関わる全ての研究者及び事務職員に対して、不正防止計画に定める（様式1）公的研究費の使用にあたっての理解度チェックシートの提出を求めます。
- ④ 毎年11月の科研費の応募の際には、過去1年間に実施した研修会・説明会の開催状況について、実施状況を文部科学省・日本学術振興会に報告しなければなりません。

(5) 無作為抽出による内部監査の実施について

科研費の不正な使用を防止するため、無作為に抽出した補助事業について、毎年内部監査を実施します。

監査は次の手順で行います。

- ① 監査は、本学地域協働課と総務企画課の職員で事務局長が指名する者で構成する内部監査チームが実施します。
- ② 通常監査は、書類上の調査を中心に行う監査で、監査を実施する年度の交付件数の10%以上について、科学研究費助成事業（科研費）内部監査に係るチェック項目（別紙様式14）により実施します。

その際、対象年度に購入した備品の10%以上について、購入理由を直接教員に収集し、その結果を備品購入理由書（様式15）で提出していただきます。

- ③ 特別監査は、書類上の調査に止まらず、実際の科研費の使用状況や納品の状況等、事実関係の厳密な確認などを含めた徹底的な監査で、通常監査を実施する補助事業の内10%以上について実施します。

なお、特別監査の際、旅費の調査については、出張の相手先等に出張の事実を確認する調査を含むこととする。

- ④ 監査対象課題は、前年度に交付を受けていた補助事業から、本部において無作為に抽出します。

⑤ 監査は10月中旬までに実施します。実施日等は研究代表者、担当課と調整の上決定します。

⑥ 監査終了後、監査実施者は、速やかに科学研究費助成事業（科研費）監査報告書（別紙様式9）により、監査結果を事務局長に報告します。

事務局は、次年度科研費の応募の際に、その実施状況及び結果について文部科学省・日本学術振興会に報告します。

(6) 集中点検

① 毎年12月に、教員は、科研費執行状況・備品登録状況点検シート（別紙様式16）により、科研費の執行状況、備品の登録状況を各自で点検し、総務企画課に提出してください。

② 毎年1月に、経営企画部長は、固定資産及び少額資産の10%以上について、備品の有無、備品シールの貼付状況について確認してください。

(7) 不正な使用に係る調査の実施

科研費の不正な使用が明らかになった場合（不正な使用が行われた疑いのある場合を含む。）には、速やかに調査を実施し、その結果を文部科学省・日本学術振興会に報告します

なお、不正な使用と認められた場合には、科学研究費の返還（加算金を含む）を求められることはもちろんのこと、継続分として内定していたものが不交付となったり、応募資格の停止等の措置がなされることがあります。

委任状

令和 年度科学研究費助成事業を受けて、研究代表者として研究を実施する

研究種目名：

課題番号：

所属部局名：

職名：

氏名：

に係る科研費の受領、管理及び諸手続を 兵庫県公立大学法人 理事長 ○○○○ に委任します。

なお、この委任（補助金の受領、管理及び諸手続）について、一切不服を申しません。

ただし、直接経費により購入した設備、備品又は図書について、寄附を受け入れるとともに、他の研究機関に所属することとなる場合には、その求めに応じて返還してください。

また、交付を受けた間接経費について、譲渡を受け入れ、これに関する事務を行うとともに、他の研究機関に所属する又は補助事業を廃止することとなる場合には、直接経費の残額の 30 %に相当する額の間接経費を返還してください。

令和 年 月 日

所属部局名：

職名：

氏名：

受 領 等 委 任 状

令和 年度科学研究費助成事業の研究分担金の配分を受けて、研究分担者として研究を実施する次の

研究種目名：

課題番号：

研究代表者所属機関名：

職名：

氏名：

に係る科研費の受領及び管理を

委任者所属機関名：

職名：

氏名：

に委任します。

令和 年 月 日

研究分担者所属部局名：

職名：

氏名：

承 諾 書

令和 年 月 日

研究代表者 様

兵庫県公立大学法人
理事長 ○ ○ ○ ○

令和 年度科学研究費助成事業を受けて、研究代表者として研究を実施する

研究種目名：

課題番号：

所属部局名：

職名：

氏名：

に係る科研費の受領、管理及び諸手続を行うことを承諾します。

また、間接経費の譲渡を受け入れ、これにかかる事務を行うとともに、研究者が他の研究機関に所属する又は補助事業を廃止することとなる場合には、直接経費の残額の30%に相当する額の間接経費を返還します。

(別紙様式3) [他機関用]

振込依頼書

令和 年 月 日

兵庫県公立大学法人

理事長 ○○○○ 様

研究分担者所属機関の長

所属・職

氏名

貴機関より配分される、次の研究課題にかかる令和 年度科学的研究費助成事業の分担金について、下記の預金口座に振り込みいただくようお願いします。

記

研究種目：

課題番号：

研究代表者氏名：

振込先

フリガナ 金融機関名	銀行	支店
預金種目		
口座番号		
フリガナ 口座名義		

令和 年 月 日

分担金配分申出書（他機関への配分）

兵庫県公立大学法人
理事長 ○○ ○○ 様

研究代表者の所属・職・氏名

令和 年度科学研究費助成事業の研究遂行上必要なため、下記のとおり研究分担者に分担金の配分を行いたいので、貴職より当該研究分担者の所属研究機関に分担金を送金願います。

記

1. 研究種目の名称

2. 課題番号

3. 研究課題名

4. 配分する分担金の内訳

研究分担者の所属・職・氏名			分担金の配分額（直接経費）					(間接経費)	合計 (直接経費 +間接経 費)
所属	職	氏名	物品費	旅費	謝金	その他	計		
○○大学△△学部	教授	○○○○	円	円	円	円	円	円	円
計 (A)									

研究代表者の執行予定額 (B)							
交付決定額 計 (A) + (B)							

(別紙様式5)

令和 年 月 日

分担金配分予定通知書

様

兵庫県公立大学法人
理事長 ○○ ○○

令和 年度科学研究費助成事業の研究遂行上必要なため、下記のとおり当機関所属の研究代表者より貴機関に所属する研究分担者に分担金の配分を行う予定ですので、通知します。

つきましては、事務手続き上必要なため、分担金の受領等委任状及び振込依頼書を提出願います。

記

研究種目等の名称	課題番号	研究代表者の所属・職・氏名			研究分担者の所属・職・氏名			分担金の配分額（直接経費）					(間接経費)	合計 (直接経費 +間接経 費)
		所属	職	氏名	所属	職	氏名	物品費	旅費	謝金	その他	計		
								円	円	円	円	円	円	円
計														

※なお、研究代表者が補助事業を廃止する場合、また研究分担者が補助事業者でなくなる場合には、分担金の返還が必要になります。

出張依頼書

令和 年 月 日

出張者の所属機関長様

研究代表者所属研究機関・所属部局・職・氏名

又は

研究機関の代表者職・氏名

科学研究費助成事業による研究の遂行上必要なため、貴機関に所属する者を下記により出張させてくださいるようお願いします。

記

1. 出張者の所属部局・職・氏名

2. 用務

3. 用務地

4. 用務先

5. 出張日程 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (日間)

6. 旅費支給額

7. 費用の負担 令和 年度科学研究費助成事業 (研究種目等の名称を記入)

研究課題名 (課題番号)

研究代表者 (所属研究機関・所属部局・職・氏名)

(作成上の注意)

- この依頼書は、研究遂行上他の研究機関に所属する者に出張を依頼する場合に用いる。研究機関に所属しない者に出張を依頼する場合には、本人宛依頼すること（出張に要する実費を謝金で支出する者の場合には必要としない。）
- 依頼者は、研究代表者（分担金を配分している研究の場合の研究分担者を含む。）又は研究機関の代表者（研究機関の代表者から委任を受けた者を含む。）とする。
- 「用務」には、この出張と科学研究助成事業による研究内容との関連が明確にわかるように出張目的を記入すること。
- 「用務地」には、用務先の所在地を、例えば東京都〇〇区、〇〇市〇〇町と記入すること。
- 「用務先」には、例えば〇〇大学〇〇学部、〇〇研究所〇〇部門と記入すること。
- 分担金を配分している研究の場合は、「費用の負担」欄の「研究代表者」については、記入する必要はないこと。

出張報告(記録)書

令和 年 月 日

研究機関の代表者又は研究代表者 様

出張者所属研究機関・所属部局・職・氏名

科学研究費助成事業による出張を下記のとおり行ったので、報告いたします。

記

1. 研究種目 令和 年度科学研究助成事業（研究種目等の名称を記入）
2. 研究課題
3. 用務地
4. 用務先
5. 出張日程 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (日間)
6. 用務の概要と研究の関連について

(作成上の注意)

1. この書類は、科学研究費助成事業により出張をした者（出張を依頼された者を含む。）が作成し、所属研究機関の代表者又は研究代表者へ報告するものである。ただし、分担金を配分している研究の場合で研究代表者又は分担金を受けた研究分担者が、出張した場合には出張記録として扱い、あて名欄は不要である。
2. あて名は、分担金を配分している研究の場合は研究代表者、分担金を配分していない研究の場合は研究機関の代表者とすること。
3. 「用務地」には、例えば東京都〇〇区、〇〇市〇〇町と記入すること。
4. 「用務先」には、例えば〇〇大学〇〇学部、〇〇研究所〇〇部門と記入すること。
5. 「用務の概要」には、用務先で行った研究等の内容が明確に分かるように記載すること。研究打合せの場合は、相手方の所属・氏名も記載すること。学会出席等の場合は、大会要旨や当日配付資料の一部を添付する等して、出張の事実確認ができるようにすること。
6. 例えば、国際学会等において、科学研究費の研究成果の発表を行った場合には、発表スケジュールの入ったプログラムの写し等を添付するなど、研究との関連を明らかにする資料を添付すれば、用務の概要のみを簡潔に記述しても差し支えない。

外国に居住する研究者を招へいた場合には、研究代表者が招へいの必要性及び招へい研究者の当該研究計画の遂行に果たす役割を記した書類（様式任意）を作成し添付すること。

研究費の区分	研究種目・テーマ

出 勤 表 (時給)

令和 年 月分

作業従事者

区分 日	業務の内容	勤務時間		作業従事者印	区分 日	業務の内容	勤務時間		作業従事者印
		上段:勤務時間 (下段:休憩時間)	(時間数)				上段:勤務時間 (下段:休憩時間)	(時間数)	
1日		○:○ ~ ○:○ (○:○ ~ ○:○)	○		17日		: ~ : (: ~ :)		
2日		: ~ : (: ~ :)			18日		: ~ : (: ~ :)		
3日		: ~ : (: ~ :)			19日		: ~ : (: ~ :)		
4日		: ~ : (: ~ :)			20日		: ~ : (: ~ :)		
5日		: ~ : (: ~ :)			21日		: ~ : (: ~ :)		
6日		: ~ : (: ~ :)			22日		: ~ : (: ~ :)		
7日		: ~ : (: ~ :)			23日		: ~ : (: ~ :)		
8日		: ~ : (: ~ :)			24日		: ~ : (: ~ :)		
9日		: ~ : (: ~ :)			25日		: ~ : (: ~ :)		
10日		: ~ : (: ~ :)			26日		: ~ : (: ~ :)		
11日		: ~ : (: ~ :)			27日		: ~ : (: ~ :)		
12日		: ~ : (: ~ :)			28日		: ~ : (: ~ :)		
13日		: ~ : (: ~ :)			29日		: ~ : (: ~ :)		
14日		: ~ : (: ~ :)			30日		: ~ : (: ~ :)		
15日		: ~ : (: ~ :)			31日		: ~ : (: ~ :)		
16日		: ~ : (: ~ :)				合 計		時間	
本人署名 月分にかかる勤務実績を報告いたします。 住所 氏名 印					時給	円	支給額計	円	
					所得税区分 月・日額(甲・乙・丙)		所得税額	円	
							差引支給額	円	
上記のとおり相違ないことを確認します。 令和 年 月 日 研究代表者名 又は研究分担者名 印					事実を確認しました。 令和 年 月 日				
					総務企画課長 印				

(作成上の注意)

- この出勤表は、研究室等に一定期間出勤し「資料整理」等を行わせた場合に作業従事者ごとに作成すること。
- 業務の内容は、例えば「○○○データの整理」「○○○実験の補助」のように記入すること。
(給与支給の対象となる年次有給休暇等を取得した場合は、「年次休暇等」と記入すること。)
- 「作業従事者印」欄は、業務の内容及び勤務時間を確認の上、作業従事者本人が押印又は署名すること。
- 「本人署名」欄は、必要事項を記入のうえ作業従事者本人が署名、押印すること。
- 研究代表者が確認・押印後、従事者本人が、総務企画課へ本紙を提出し、事実確認を受けること。
- 年次有給休暇等を取得した場合は、休暇欠勤簿の写しを添付すること。

研究費の区分	研究種目・テーマ

出 勤 表 (日給)

令和 年 月分

作業従事者

区分 日	業務の内容	勤務時間		区分 日	業務の内容	勤務時間		作業従事者印
		上段:勤務時間 (下段:休憩時間)	作業従事者印			上段:勤務時間 (下段:休憩時間)	作業従事者印	
1日		: ~ :		17日		: ~ :		
2日		: ~ :		18日		: ~ :		
3日		: ~ :		19日		: ~ :		
4日		: ~ :		20日		: ~ :		
5日		: ~ :		21日		: ~ :		
6日		: ~ :		22日		: ~ :		
7日		: ~ :		23日		: ~ :		
8日		: ~ :		24日		: ~ :		
9日		: ~ :		25日		: ~ :		
10日		: ~ :		26日		: ~ :		
11日		: ~ :		27日		: ~ :		
12日		: ~ :		28日		: ~ :		
13日		: ~ :		29日		: ~ :		
14日		: ~ :		30日		: ~ :		
15日		: ~ :		31日		: ~ :		
16日		: ~ :			合 計		日	
本人署名 月分にかかる勤務実績を報告いたします。 住所 氏名 印				日給 円	支給額計	円		
				所得税区分 月・日額(甲・乙・丙)	所得税額	円		
					差引支給額	円		
上記のとおり相違ないことを確認します。 令和 年 月 日 研究代表者名 又は研究分担者名 印				事実を確認しました。 令和 年 月 日 総務企画課長 印				

(作成上の注意)

- この出勤表は、研究室等に一定期間出勤し「資料整理」等を行わせた場合に作業従事者ごとに作成すること。
- 業務の内容は、例えば「○○○データの整理」、「○○○実験の補助」のように記入すること。
(給与支給の対象となる年次有給休暇等を取得した場合は、「年次休暇等」と記入すること。)
- 「作業従事者印」欄は、業務の内容及び勤務時間を確認の上、作業従事者本人が押印又は署名すること。
- 「本人署名」欄は、必要事項を記入のうえ作業従事者本人が署名、押印すること。
- 研究代表者が確認・押印後、従事者本人が、総務企画課へ本紙を提出し、事実確認を受けること。
- 年次有給休暇等を取得した場合は、休暇欠勤簿の写しを添付すること。

研究費の区分	研究種目・テーマ

出 勤 表 (月額)

令和 年 月分

作業従事者

区分 日	業務の内容	作業従事者印	区分 日	業務の内容	作業従事者印
1日			17日		
2日			18日		
3日			19日		
4日			20日		
5日			21日		
6日			22日		
7日			23日		
8日			24日		
9日			25日		
10日			26日		
11日			27日		
12日			28日		
13日			29日		
14日			30日		
15日			31日		
16日					

本人署名

月分にかかる勤務実績を報告いたします。

住所

氏名 印

上記のとおり相違ないことを確認します。 研究代表者名 又は研究分担者名	令和 年 月 日 印	事実を確認しました。 総務企画課長	令和 年 月 日 印
---	---------------	----------------------	---------------

(作成上の注意)

- この出勤表は、研究室等に一定期間出勤し「資料整理」等を行わせた場合に作業従事者ごとに作成すること。
- 業務の内容は、例えば「〇〇〇データの整理」、「〇〇〇実験の補助」のように記入すること。
(年次有給休暇等を取得した場合は、「年次休暇等」と記入すること。)
- 「作業従事者印」欄は、実施した業務の内容を確認の上、作業従事者本人が押印又は署名すること。
- 「本人署名」欄は、必要事項を記入のうえ作業従事者本人が署名、押印すること。
- 研究代表者が確認・押印後、従事者本人が、総務企画課へ本紙を提出し、事実確認を受けること。
- 年次有給休暇等を取得した場合は、休暇欠勤簿の写しを添付すること。

(別紙様式8-4)

研究費の区分	研究種目・テーマ

期末手当確認表

氏名	
支給期	令和 年 月
対象期間	6月支給期:12月2日～6月1日 12月支給期:6月2日～12月1日
在職期間	月 日～月 日(箇月 日)
業務内容	

※ 該当月の「出勤表」の写しを添付すること。

支給割合	月額単価(円) (給料+地域手当)	支給額(円)
		0

上記のとおり相違ないことを確認します。

令和 年 月 日

研究代表者名

又は研究分担者名

印

上記のとおり相違ないことを確認します。

令和 年 月 日

総務企画課長

印

(別紙様式9)

事務局長	地域 R&I 推進部長	地域協働 課長	課 員	経営企画 部長	総務企画 課長	課 員
科学研究費助成事業（科研費）監査報告書（通常・特別）						
研究種目、研究形態の別						
研究課題（課題番号）						
研究代表者 職・氏名					研究者数	人
研究経費	年度 千円	年度 千円	年度 千円	年度 千円	年度 千円	年度 千円
	監査実施年月日	令和 年 月 日	監査対象期間	令和 年 月 から 令和 年 月		
監査対象額	直接経費 円		間接経費 円		直接経費及び間接経費の合計 円	
	物品費 円		旅 費 円		謝金等 円	
	その他 円					
	監査実施者 職・氏名・印					
令和 年 月 日						
上記の科学研究費助成事業の監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。						
記						
1 監査の方法の概要について						
2 監査の結果について						

(別紙様式 1 0 - 1)

(金額単位：円)

令和 年度科学硏究費助成事業（科学硏究費補助金）

(研究種目名を記入) 収支簿

研究代表者の氏名		研究課題名							
経理担当者の所属部局・職・氏名									
交付決定額	円								
うち直接経費	円	課題番号	1	2	3	4	5	6	7
間接経費	円		1	2	3	4	5	6	7

〔作成上の注意〕

1. この収支簿は、研究課題ごとに作成すること。（分担金を配分する研究課題にあっては、当該分担部分ごとに各研究機関で作成したものを、研究代表者が所属する研究機関でとりまとめること。）
2. 「研究代表者の氏名」欄には、研究代表者名を記入すること。（分担金を配分する研究機関にあっては、研究代表者の氏名とともに、（ ）書きで、当該研究分担者の氏名を記入すること。）
3. 「交付決定額」欄には、研究代表者が交付を受けた補助金の額を記入すること。
4. 「年月日」欄には、物品の購入・預金利息の研究機関への譲渡等により支出を行った日及び補助金、預金利息の受入日を記入すること。
なお、事務処理上当欄に支出日以外の日を記入する場合には、「備考」の「その他」欄に必ず支出日を記入しておくこと。
5. 「摘要」欄には、品名、数量等次の事項を記入すること。
 - (1) 「物品費」の場合 — 品名・数量
 - (2) 「旅費」の場合 — 旅行者名、旅行先、旅行期間
 - (3) 「人件費・謝金」の場合 — 研究補助作業従事者等氏名、作業従事期間
 - (4) 「預金利息」・「解約利息」
6. 「備考」欄には、伝票番号、支出先及び設備等を寄付した研究機関名等を記入すること。
7. 同一の研究機関に所属する研究分担者について同一の収支簿で管理する場合には、「摘要」欄や「備考」欄に支出した補助事業者名を記載するなど支出した者を区分できること。
8. 本様式については、上記の内容が全て網羅されていれば、用紙の規格、形式は任意であっても差し支えない。

(別紙様式 10-2)

(金額単位：円)

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

(研究種目名を記入) 収支簿

研究代表者の氏名		研究課題名							
経理担当者の所属 部局・職・氏名									
交付決定額	円	補助事業期間							
うち直接経費	円	課題番号	1	1	1	1	1	1	1
間接経費	円		1	1	1	1	1	1	1

〔作成上の注意〕

1. この収支簿は、研究課題ごとに作成すること。（分担金を配分する研究課題にあっては、当該分担部分ごとに各研究機関で作成したものを、研究代表者が所属する研究機関でとりまとめること。）
補助事業期間が2年以上の研究課題については、年度毎に「小計」を記載すること。
各年度における「前年度未使用額」については、翌年度の「収入」として括弧書きで計上し、「収入」欄の補助事業期間全体を通じた「合計」には含めないこと。
2. 「研究代表者の氏名」欄には、研究代表者名を記入すること。（分担金を配分する研究機関にあっては、研究代表者の氏名とともに、（ ）書きで、当該研究分担者の氏名を記入すること。）
3. 「交付決定額」欄には、研究代表者が交付を受けた助成金の額を記入すること。
4. 「年月日」欄には、物品の購入・預金利息の研究機関への譲渡等により支出を行った日及び助成金、預金利息の受入日を記入すること。
なお、事務処理上当欄に支出日以外の日を記入する場合には、「備考」の「その他」欄に必ず支出日を記入しておくこと。
5. 「摘要」欄には、品名、数量等次の事項を記入すること。
 - (1) 「物品費」の場合 — 品名・数量
 - (2) 「旅費」の場合 — 旅行者名、旅行先、旅行期間
 - (3) 「人件費・謝金」の場合 — 研究補助作業従事者等氏名、作業従事期間
 - (4) 「預金利息」・「解約利息」
6. 「備考」欄には、伝票番号、支出先及び設備等を寄付した研究機関名等を記入すること。
7. 同一の研究機関に所属する研究分担者について同一の収支簿で管理する場合には、「摘要」欄や「備考」欄に支出した補助事業者名を記載するなど支出した者を区分できるようにすること。
8. 本様式については、上記の内容が全て網羅されていれば、用紙の規格、形式は任意であっても差し支えない。また、年度毎に別様になっても差し支えない。

科学硏究費助成事業

(研究種目名を記入) 収支簿

研究代表者の氏名				研究課題名	
経理担当者の所属 部局・職・氏名					
交付（予定）額（円）	直接経費	間接経費	合計	研究期間	
期間全体 科学研究費補助金 学術研究助成基金助成金					
平成〇〇 年度 科学研究費補助金 学術研究助成基金助成金				課題番号	1 1 1 1 1 1

[作成上の注意]

1. この収支簿は、研究課題ごとに作成すること。（分担金を配分する研究課題にあっては、当該分担部分ごとに各研究機関で作成したものを、研究代表者が所属する研究機関でとりまとめること。）
2. 「研究代表者の氏名」欄には、研究代表者名を記入すること。（分担金を配分する研究機関にあっては、研究代表者の氏名とともに、（ ）書きで、当該研究分担者の氏名を記入すること。）
3. 「交付（予定）額」欄には、研究代表者が交付を受けた研究期間全体の補助金、助成金の交付（予定）額及び当該年度の補助金、助成金の交付（予定）額を記入すること。
4. 「年月日」欄には、物品の購入・預金利息の研究機関への譲渡等により支出を行った日及び補助金、助成金、預金利息の受入日を記入すること。

なお、事務処理上当欄に支出日以外の日を記入する場合には、「備考」の「その他」欄に必ず支出日を記入しておくこと。

5. 「摘要」欄には、品名、数量等次の事項を記入すること。

- (1) 「物品費」の場合 — 品名・数量
- (2) 「旅費」の場合 — 旅行者名、旅行先、旅行期間
- (3) 「人件費・謝金」の場合 — 研究補助作業従事者等氏名、作業従事期間
- (4) 「預金利息」・「解約利息」

6. 「備考」欄には、伝票番号、支出先及び設備等を寄付した研究機関名等を記入すること。

7. 同一の研究機関に所属する研究分担者について同一の収支簿で管理する場合には、「摘要」欄や「備考」欄に支出した補助事業者名を記載するなど支出した者を区分できること。

8. 本様式については、上記の内容が全て網羅されていれば、用紙の規格、形式は任意であっても差し支えない。

様式10-1又は様式10-2を活用して、補助金、助成金毎に別様で管理しても差し支えない。また、備考欄で補助金と助成金を区別して管理しても構わない。

なお、研究期間全体を通じて作成しても差し支えないが、研究機関全体を通じて作成する場合には、助成金の「前年度未使用額」については、「収入」欄に括弧書きで計上し、「収入」欄の「合計」には含めないこと。

(別紙様式11)

決 定 日	購入決定者	部 長	課 長	担 当
・				

物品購入等決定伺い

(要求日) 令和 年 月 日

職 名

氏 名

1 研究費の区分等

研究費の区分	研究種目・研究テーマ
1 教員研究費	
2 受託研究費・共同研究費	
3 事務費	
4 科研費	

2 支出科目

物品費 その他(科研費のみ該当)

3 購入内容

(単位:円)

品名及び品番	単価	数量	金額	業者名	備考
計					

※教員が発注権限を有する10万円未満の物品の発注について、発注先の公平性や発注金額の適正性についての説明責任や弁償責任等の会計上の責任は各教員に帰属します。

※発注において見積もり合わせが必要な購入の場合は、見積書を添付すること

4 購入理由

*記載不十分な場合は、購入が認められません。特に科研費は、研究テーマにおける必要性がわかるよう詳細に記載してください。

5 備考

①立替払いは、緊急かつやむを得ない場合しか認められません。

立替払いが必要な場合は、「立替払いでなければ支払えない具体的な理由」を下欄に記載してください。

②立替払いの場合は、必ず購入後2週間以内に総務企画課で検収を受けてください。

※検収に必要なもの:立替払いの対象事項が確認できるもの(物品の実物、学会参加の実績など)、領収書、本様式[物品購入等決定伺い]

(別紙様式12)

立替払い請求書

令和 年 月 日

職名

氏名

下記のとおり科研費の立替払いをしたので、請求します。

記

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 研究種目 | 年度科研費 (研究種目名 :) |
| 2 研究課題名 | |
| 3 品名等 | |
| 4 用途 | |
| 5 購入(支払)先 | |
| 6 金額 | 円 |
| 7 使用年月日 | 年 月 日 |
| 8 立替事由 | |

立替払いでなければ支払えなかった理由を下欄に具体的に記載してください。

		※経理担当者確認
--	--	----------

※立替払いは、①現地払い・事前支払が必要(海外、学会等)、②請求書払いに非対応の業者に限定される、③見積合わせの結果立替払いの方が安価、④その他やむを得ない場合に限ります。

(注) 記載不十分な場合は立替払いを認めない。また、見積もり合わせが必要な物品は原則認めない。

- 9 チェックリスト (各項目をチェックした結果、該当する方に○印をつけること。)

項目	該当する方に○印	※経理担当者確認
(1)物品の「品番」※1	あり()、なし	
(2)物品の「シリアル番号等」※1	あり()、なし	
(3)提出は購入から2週間以内か※2	はい、いいえ	
(4)次のものも併せて提出しているか		
①購入した物品、学会参加の実績が確認できるもの等	はい、いいえ	
②領収書	はい、いいえ	
③物品購入等決定伺い	はい、いいえ	
④引落し明細 (引落し年月日が記載されたもの)	はい、いいえ	

※1 「あり」の場合、()内に「品番」「シリアル番号等」を記載すること。

※2 クレジット払いの場合は、2週間以内に物品の検収だけ先に受けること。(後日、引落し明細入手してから、この様式で請求すること。)

科学研究費助成事業研究分担者承諾書（同一機関用）

研究代表者所属部局・職・氏名

様

研究種
目名

研究課題名

(研究期間 令和 年度～令和 年度)

標記研究課題について、研究計画の遂行に関して研究代表者と協力しつつ、補助事業として研究遂行責任を分担して研究活動を行う研究分担者となることを承諾します（科研費の公募要領に定める応募資格を有していることは、所属する研究機関に確認済みです。）。

また、科研費の補助条件（交付条件）及び以下の内容を理解し、遵守するとともに研究代表者から分担金の配分を受け科研費を適正に使用します。

- ・学術研究に対する国民の負託及び科研費が国民の貴重な税金で賄われていることを十分認識し、科研費を適正かつ効率的に使用するとともに、研究において不正行為を行わないことを約束します。
- ・当該研究課題の交付申請前まで（交付決定後においては、研究代表者が日本学術振興会に研究分担者の変更承認申請を行う前まで）に、文部科学省が指定する研究倫理教育教材（科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、CITI Japan e-ラーニングプログラム等）の通読・履修、または「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文部科学大臣決定）を踏まえ研究機関が実施する研究倫理教育を履修することを約束します。

研究分担者の所属部局・職・氏名

印

研究分担者の所属研究機関番号等

機 関 番 号	部 局 番 号	職 番 号	研 究 者 番 号

- 注.
- 1 科研費の公募要領に定める応募資格の有無について、必ず所属する研究機関に確認してください。
 - 2 同一の研究課題について、同一の研究機関から複数の研究分担者が参加しようとする場合は、「研究分担者の所属部局・職・氏名」欄及び「研究分担者の所属研究機関番号等」欄に連記して差し支えありません。
 - 3 研究分担者は、内容を確認の上、氏名・研究者番号を必ず記入してください。研究者番号の記入に当たっては、所属研究機関の事務局に問い合わせの上、誤りの無いよう記入してください。

科学研究費助成事業研究分担者承諾書（他機関用）

研究代表者所属研究機関・部局・職・氏名

殿

研究種目名 _____

研究課題名

(研究期間 令和 年度～令和 年度)

標記研究課題について、研究計画の遂行に関して研究代表者と協力しつつ、補助事業として研究遂行責任を分担して研究活動を行う研究分担者となることを承諾します。

また、科研費の補助条件（交付条件）及び以下の内容を理解し、遵守するとともに研究代表者から分担金の配分を受け科研費を適正に使用します。

- ・学術研究に対する国民の負託及び科研費が国民の貴重な税金で賄われていることを十分認識し、科研費を適正かつ効率的に使用するとともに、研究において不正行為を行わないことを約束します。
- ・当該研究課題の交付申請前まで（交付決定後においては、研究代表者が日本学術振興会に研究分担者の変更承認申請を行う前まで）に、文部科学省が指定する研究倫理教育教材（科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、CITI Japan e-ラーニングプログラム等）の通読・履修、または「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文部科学大臣決定）を踏まえ研究機関が実施する研究倫理教育を履修することを約束します。

研究分担者の所属研究機関・部局・職・氏名

印

研究分担者の所属研究機関番号等

機 関 番 号	部 局 番 号	職 番 号	研 究 者 番 号

本機関に所属する上記の者が標記研究課題の研究分担者となることを承諾します。
上記の者は、科研費の公募要領に定める応募資格を有するとともに、科研費及びそれ以外の競争的資金の不正な使用等に伴い科研費の交付対象から除外されている者ではありません。

また、当該研究分担者が配分された研究費の経理・管理について責任を持って適正に行います。

研究分担者の所属研究機関長の職・氏名・職印

職印

- 注. 1 所属機関長の職・氏名・職印欄は、学部長、附置研究所等の部局の長が承諾書に関する権限を委任されているときはこれらの部局長の氏名・職印で差し支えありません。
- 2 同一の研究課題について、同一の研究機関から複数の研究分担者が参加しようとする場合は、「研究分担者の所属研究機関・部局・職・氏名」欄及び「研究分担者の所属研究機関番号等」欄に連記して差し支えありません。
- 3 研究分担者は、内容を確認の上、氏名・研究者番号を必ず記入してください。研究者番号の記入に当たっては、所属研究機関の事務局に問い合わせの上、誤りの無いよう記入してください。

(別紙様式14)

令和 年度科学研究費助成事業（科研費）内部監査に係るチェック項目

【研究者名：】

番号	チ エ ッ ク 項 目	結果	備 考
1	設備備品等を購入する際、契約事務規程等に基づき手続を行っているか。		
2	支出決定における決裁者は「マニュアル3-(2)における職務権限者」に合致しているか		
3	当該助成事業にかかる収支簿等を正しく記帳しているか。		
4	当該科研費から支払いできない経費を支出していないか。		
5	謝金等（賃金）の支給にあたり、従事者本人から、支給の原因となる行為の確認を行っているか。		
6	物品の検収は、経理員または予め指定された教員が行っているか。また、請求書及び納品書に検収印（確認印）が押印されているか。		
7	研究の開始時期は適正か。（継続の研究課題は、4月1日から、新規の研究課題は、交付内定通知受領後から開始できる。）		
8	研究者から誓約文書が提出されているか。		
9	設備備品を購入した場合、速やかに本学への寄附手続きを行っているか。		
10	出張の際は、旅行命令簿に基づいて実施しているか。		
11	出張後は、出張報告書の提出がされているか。また、その記載内容や添付資料により事実確認をしているか。		
12	物品の納品、役務の提供等は、3月31日までに終了しているか。		
13	納品書は適正に保管されているか。		
14	研究代表者と同一の研究機関に所属する研究分担者の補助金について使用額が確認できるようになっているか。		
15	公的研究費の執行状況の点検・確認が、定期的に行われているか。		
16	公的研究費の適正な執行に係る意識啓発のための、教職員に対する説明会、研修会が開催されているか。		
17	研究成果報告書の提出等が、定められた手続きに沿って行われているか。		

(注記)

以上のチェック項目は、基本的なものを挙げているので、助成事業の内容に沿って、必要な項目を掲げ、チェックしてください。

(別紙様式15)

令和 年度科学硏究費助成事業（科研費）

備品購入理由確認表

研究者名	
研究種目	
研究課題番号	
研究課題名	
備品名称・型番等	購入理由

(別紙様式16)

令和 年度科学硏究費助成事業（科研費）

科研費執行状況・備品登録状況点検シート

点検日 令和 年 月 日

研究者名

研究課題番号		研究種目	
--------	--	------	--

質問1 科研費の執行状況

※財務会計システムで確認してください。

予算額（円）	
執行済額（円）	
残額（円）	

質問2 本年度に購入した備品（固定資産・少額資産）